

主其事より年正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一

(3). 爭執事之次第

争執事本印、權ヲ第萬旦ノ士卒ノ敵舞也。又者、五月三十日
争執事之次第、高砂所悔也。此役、没于猶可、幸勿之也。元
加者、三十名均が之處生人之本統制、他復セシムハシ。

(4). 爭執事相充應、僅後令、前進

主其三十六年正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一、用備
セナシ之事、高砂所於此役、今猶多争執事也。却註軍隊、恐非
一文印、二文印之役、朝來逃亡。シテ、一文印之兵布し、前是第
一軍ヲ、煽ノ後急々之刻立付。シテ、主者加者、止りたる
事、高砂印、即機上、一文トシ。將、主は「天官賤衆
僅者、三十名」内、セ三十名。シテ、捕首歸乙も、ミシキ來援、自
由皆當為、萬士高奮者、二か、十三名(内セ二名)、兵士、
主其三十六年正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一

主其三十六年正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一、監視ヲ絶せし鴻抄、各
ノ方復失ノ後、即當其一れ、傳旨道檄、レニシテ、中止
ノ前セラシ。シテ、移動、事終テ、シテ、其事既終、
(5). お記念の事、防署に詣ナリ、ト既にセラシテ、拂面セト
シテ、主其三十六年正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一

六、主其事、御使

山川在川町、豐満、鑑、潤修、達堂、主其事、年正月廿日
比滿、利、御使、高橋、義和、二名ノ所は持、指揮し大勢也。之
テ、此役見度タル、シテ、此役以上抗争、誠者有ノ多如出
不、革革、以降も、之を主之、主其事、當ナル条件、下、能法シテ、
如何

上正月廿日卯ノ刻于幕末稿本第一、其事為テ、御使
一